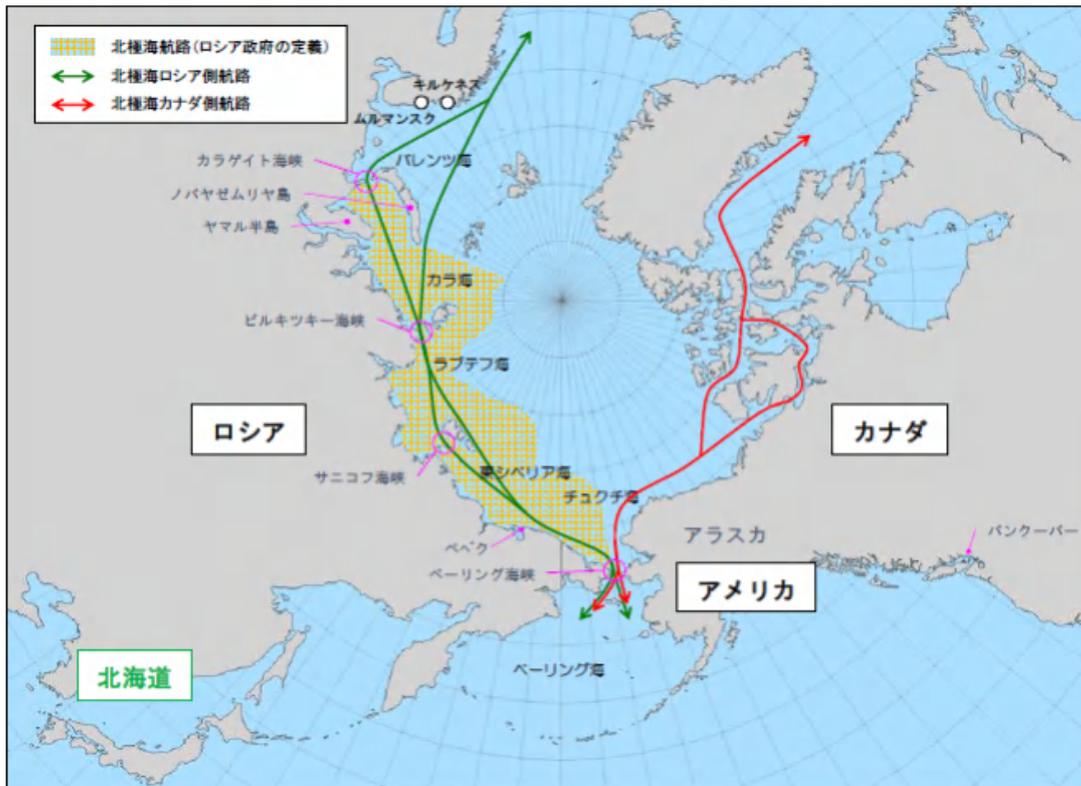


～ 北極海航路とは ～

- 北極海を横断して大西洋と太平洋を結ぶ航路は、大航海時代から探検、科学調査が繰り返され、沿岸国の商船や観測を目的とした調査船などに限定的に利用されてきましたが、近年、夏期における北極海の海水減少とともに、新たな海上輸送ルートとして国際的に注目を浴びています。
- 北極海を横断する航路には、欧州からロシア沿岸に沿ってベーリング海峡に至る「北東航路」と、北米大陸側を通る「北西航路」がありますが、ロシアは、北東航路のうち、カラゲート海峡からベーリング海峡までのおよそ4,800kmの区間を北極海航路（Northern Sea Route: NSR）と命名し、独自の規則を適用しています。
- この北極海航路を利用すると、アジアと欧州北部や欧州ロシアの間は、最短の海上ルートで結ばれ、既存のスエズ運河ルートと比較して概ね4割の距離が短縮可能となり、輸送日数だけでなく、燃料消費量の削減や温室効果ガス排出量の削減の効果が期待されることです。
また、スエズ運河ルートでの海賊問題など、不安定要因を回避することができる代替輸送ルートとしての重要性も指摘されています。



【北東航路（北極海航路）と北西航路】

出典：JAXA、国総研、北開局、青森県「北極海航路に係る衛星AISデータを活用した共同研究成果」に物流港湾室加筆作成



【北極海航路ルートとスエズ運河ルート】